

この推計は、施策の影響を加味せず、過去の人口移動の実績を踏まえて算出した計算上の推計値です。

瑞穂町第1回人口推計結果について

1. 推計方法

・人口推計の方法は、国立社会保障・人口問題研究所(以下 社人研)が我が国の人口推計で行っているコーホート要因法と同じ方法で行いました。

2. 人口推計の要因となる項目の数値設定方法

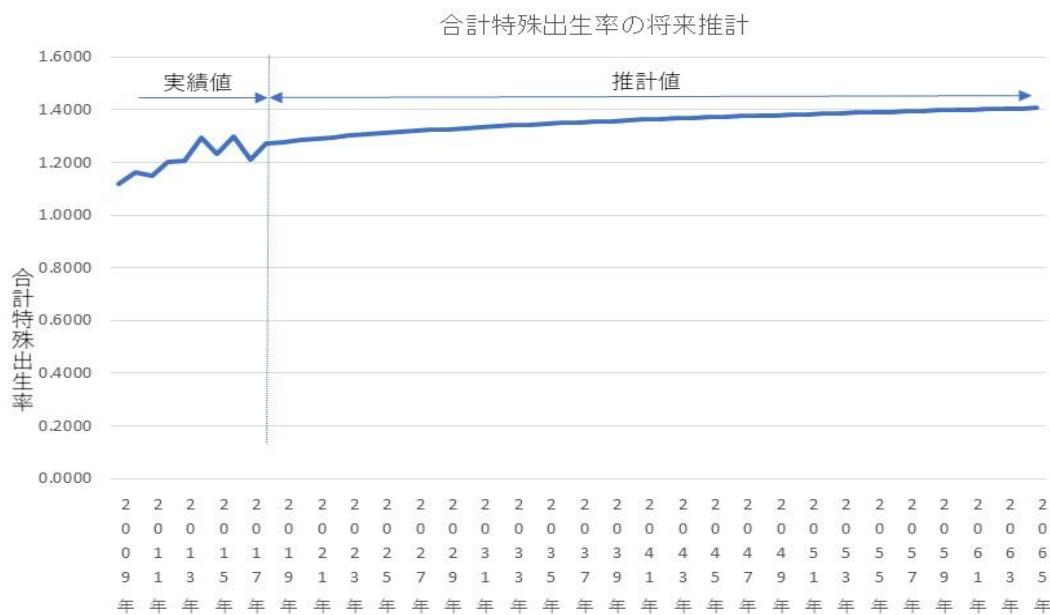
(1) 男女別年齢別の死亡率の設定

・男女別年齢別死亡率は、直近(平成30年)の日本の簡易生命表を使用しました。

(2) 合計特殊出生率の設定

・過去の瑞穂町の合計特殊出生率の時系列分析を行い、重相関係数の0.83と最も高くでた(誤差が少ない)「べき乗式」から将来の合計特殊出生率を求めて使用しました。

図 瑞穂町の将来合計特殊出生率の推計



(3) 合計特殊出生率から出生数を求める算式

・国が発表した算式に準拠することとした。算式は以下の計算方法による。

$$\text{出生数} = \frac{\text{女性人口 (15~49歳)}}{35^{1)}} \times \text{(期間)合計特殊出生率} \times \text{(15~49歳女性人口の年齢構成の違い}^{2)})$$

注：1) 女性人口(15~49歳)を乗じて出生数となるように35で除している。

注：2) 実際の年齢構成がどの年齢の女性の人数も同じという年齢構成とどのくらい違うか表すもの

(4) 「年齢構成の違い」の設定

・「年齢構成の違い」の都道府県及び区市町村の値は公表されているので、時系列分析を行い求めまし

たが、現実的でない数値となりました。そのため、瑞穂町の過去最低 0.839(我が国では平成 2 年 0.860)から、今後は 0.83 で推移するとして予測を行いました。

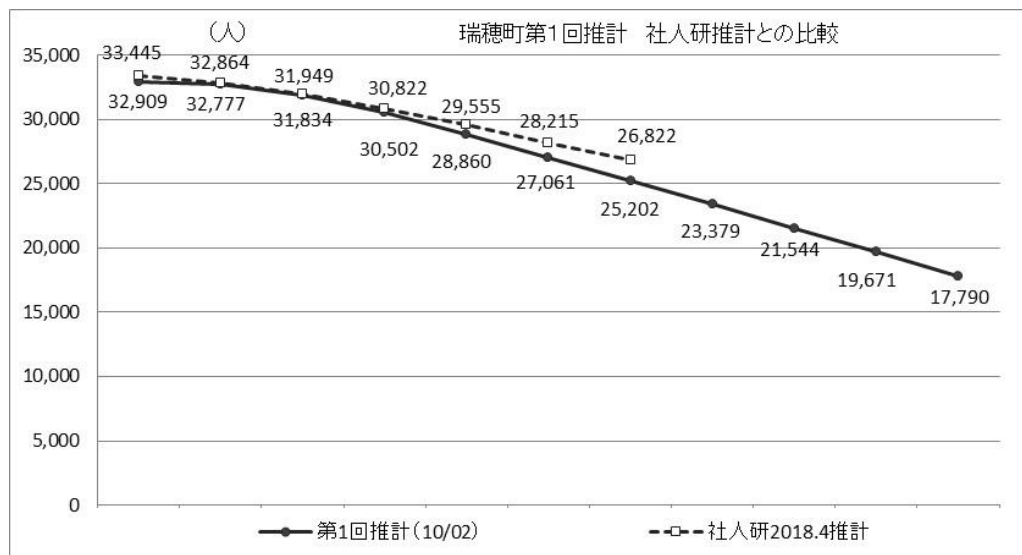
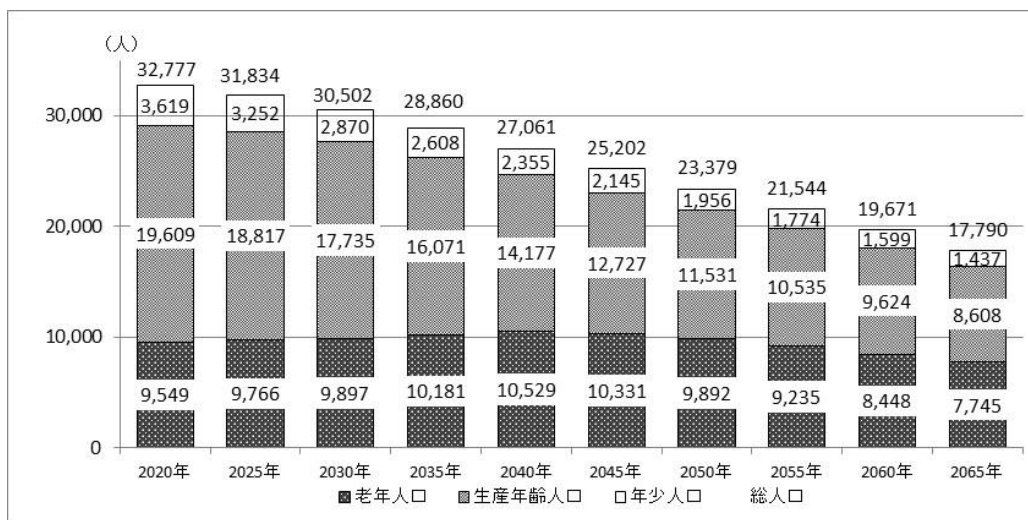
(5) 男女年齢別の社会移動率の設定

- ・平成 21～30 年の過去 10 年間の各年の男女各歳別社会移動率を求め、平均値を男女各歳別社会移動率として使用しました。

2. 第 1 回人口推計結果

- ・現状のまま推移するとして行った第 1 回の人口推計結果は以下のようになりました。

▼人口区分の推移	実数		予測値								
	2019年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年	2065年
老年人口	9,434	9,549	9,766	9,897	10,181	10,529	10,331	9,892	9,235	8,448	7,745
生産年齢人口	19,751	19,609	18,817	17,735	16,071	14,177	12,727	11,531	10,535	9,624	8,608
年少人口	3,724	3,619	3,252	2,870	2,608	2,355	2,145	1,956	1,774	1,599	1,437
総人口	32,909	32,777	31,834	30,502	28,860	27,061	25,202	23,379	21,544	19,671	17,790
老年人口	28.7%	29.1%	30.7%	32.4%	35.3%	38.9%	41.0%	42.3%	42.9%	42.9%	43.5%
生産年齢人口	60.0%	59.8%	59.1%	58.1%	55.7%	52.4%	50.5%	49.3%	48.9%	48.9%	48.4%
年少人口	11.3%	11.0%	10.2%	9.4%	9.0%	8.7%	8.5%	8.4%	8.2%	8.1%	8.1%
総人口	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%



この推計は、施策の影響を加味せず、過去の人口移動の実績を踏まえて算出した計算上の推計値です。